

日本の医療制度を 海外と徹底比較

医師 **2.6人** で受診 **12回** のパラドックス



医知創造ラボ

OECD Health at a Glance 2025

2026年7月

「保険証1枚で どこでも受診」は 世界の常識じゃない？

結論

日本の医療は、
少ない医師と細い財政基盤の上に立つ。

本日のアジェンダ

- 1** | 国民皆保険の仕組み
- 2** | 医療費は高い？安い？
- 3** | 医療の「質」は世界何位？
- 4** | 医師少数×受診最多のパラドックス
- 5** | このまま維持できる？

1961年に達成した4点セット

- ✓ 国民皆保険 — 原則全員が公的保険に加入
- ✓ フリーアクセス — 紹介状なしで専門医にかかる
- ✓ 全国同一の診療報酬 — どこでも同じ公定価格
- ✓ 高額療養費制度 — 所得別の自己負担上限

この4点セットが、日本の医療アクセスを支えている

世界の医療保障は3つの型に分かれる

類型	代表国	財源	アクセスの特徴
税方式	イギリス (NHS)・北欧	税金	受診時は原則無料。GP登録制で専門医には紹介が必要
社会保険方式	日本・ドイツ・フランス	保険料 +公費	日本は紹介状なしで専門医に直接かかるフリーアクセスが特徴
民間保険中心	アメリカ	民間保険料	加入プランで受けられる医療が異なる。無保険者が存在

日本の医療費は高い？安い？

指標	日本	OECD平均	読み方
医療費 対GDP比	10.6%	9.3%	経済規模に対しては平均より高い
一人当たり医療費 (PPP)	5,790ドル	5,967ドル	一人当たりでは平均以下

世界最高の高齢化率を抱えながら、一人当たりコストは平均以下に収まっている

OUT-OF-POCKET

85%

医療費の大部分を
保険・公費が負担

カバー率のOECD平均は75%。自己負担は総医療費の12.2%／出典: OECD Health at a Glance 2025

 HEALTH OUTCOME

84.1年

OECD平均より

3.0年長い

予防可能死亡・治療可能死亡も低水準／出典: OECD Health at a Glance 2025

その「世界一」、根拠は？

× 「日本の医療は世界一」という言説をよく見る

○ 代表的な国際比較Commonwealth Fund 2024（10か国）に、日本はそもそも含まれていない

○ 分かっているのは、米国は10か国中支出最大なのに総合評価は最下位という事実

THE PARADOX

2.6人

医師数（人口千人あたり）
OECD 38か国中35位

×

12.1回

年間受診回数（1人あたり）
OECD最高水準

医師が少ない部類の国が、
最も頻繁に受診される医療を提供

出典: Uenishi M, et al. Glob Health Med. 2026;8(1):8-12.

少ない医師を、厚い医療資源が支える



人口千人あたり。全国一律の低い診療報酬単価も一因

パラドックスには代償がある



フリーアクセスの下では、受診の交通整理（ゲートキーピング）が働きにくいことも脆弱性の一つ

制度は転換点を迎えている

少子高齢化に加え、約3,500に分立する保険者間で保険料負担率に3倍超の格差があることも課題として指摘されている。



海外も、別の困難と向き合う

国	制度の特徴	今、直面する課題
イギリス	税財源・受診時原則無料	待機リスト約711万件（2026年3月時点）／18週以内治療は65.3%
アメリカ	民間保険中心	無保険者 約2,600万人／支出最大なのに総合評価は最下位

※イギリスは2024年7月の762.6万件から待機リストを減少させるなど改善に取り組んでいる

今日の3つの持ち帰りポイント

01

平均以下の コストで最長寿命

対GDP比10.6%・一人当たり5,790ドルで、平均寿命84.1年。国際データが示す国民皆保険の実力です。

02

その実力は “タダ”ではない

医師2.6人/千人（OECD 35/38位）で、受診12.1回/年を支えるパラドックスの上に立っています。

03

制度は 当たり前ではない

2026年8月の高額療養費改正は転換点。かかりつけ医の活用と適正受診が皆保険を守ります。



ご視聴にあたってのお願い

この動画は医療制度に関する**教育・情報提供**を
目的としており、特定の政策への賛否を
表明するものではありません。
体調に不安がある場合は、我慢せず
医療機関を受診してください。

ご視聴ありがとうございました



概要欄をチェック
出典を掲載



チャンネル登録
医療の「当たり前」
を毎週解説



高評価で応援
次回も**お楽しみに**

これからも、データに基づいた医療の話を
わかりやすくお届けしてまいります。
引き続き、**医知創造ラボ**をよろしくお願いいたします。